

# たまねぎレポート【367号】



成30年5月26日

阪南青果株式会社

## 社 内 報

4月の天候は、南から暖かい空気が流れ込みやすく、東・西日本で気温がかなり高くなり、北日本で高かった。降水量は、東日本の日本海側でかなり多かった。日照時間は西日本の太平洋側と沖縄・奄美でかなり多かった。5月も例年に比べ気温の高い日が多い。

気象庁の6～8月の3か月予報では、この期間の平均気温は全国で高い確率50%、降水量は、沖縄・奄美で平年並み亦は少ない確率ともに40%。月別予報は次の通り。

6月、北日本では期間の前半は数日の周期で天気が変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い。東・西日本では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が少ない。気温は、北日本で平年並み亦は高

い。沖縄・奄美では平年に比べ高い。降水量は、東・西日本で平年並み亦は多い。沖縄・奄美で平年並み亦は少ない。

7月、北日本と東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側と西日本では、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少なく、後半は平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が多い。気温は、北日本で平年並み亦は高い。東・西日本と沖縄・奄美で高い。降水量は、東日本の太平洋側と西日本と沖縄・奄美で平年並み亦は少ない。

8月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。気温は、全国で平年並み亦は高い。

## 需要(市場)の動き

### 野菜の概況

4月の建値市場の野菜の入荷は、大阪本場以外は前年同月比減で、価格は総ての市場で前年比安となり、軟調な市況が続いた。市場別に入荷と平均単価は、札幌市場では入荷は前年比86%、平均単価はkg¥200で前年比93%。東京市場は前年比97%の入荷で、平均単価はkg¥226前年比87%。名古屋市場は前年比99%の入荷で、平均単価はkg¥209前年比88%。大阪本場は前年比108%の入荷で、平均単価はkg¥212前年比81%。福岡市場は前年比96%の入荷で、平均単価はkg¥158前年比84%となっている。

4月の建値市場の玉葱の販売量は、27,684トン前年比90%で、引き続き前年比減、価格は前年比安で活気がなく不振であった。市場別に入荷量と平均価格は、札幌市場の入荷は前年比74%で、平均単価はkg¥89前年比98%。東京市場の入荷は前年比98%、平均単価はkg¥102前年比78%。名古屋市場の入荷は前年比99%、平均単価はkg¥91前年比89%。大阪本場の入荷は前年比102%で、平均単価はkg¥102前年比81%。福岡市場の入

荷は前年比61%、平均単価はkg¥99前年比88%となっている。

日本農業新聞社の全国主要7地区の代表荷受7社の集計値では、4月の主要野菜14品目の販売量は、87,945トン前年比99%(前月比98%)、平均単価はkg¥134前年比80%(前月比83%)となっている。秋冬季に高騰した反動で引き合いが弱く、総体的には入荷減の価格安となっている。販売量が前年比増となっている品目は、ハクサイが前年比30%増、ナスが19%増、ピーマンが11%増など6品目。前年比減となっている品目は、ホウレンソウが前年比20%減、タマネギ・ニンジンが14%減など8品目。価格が前年比高となっている品目は、ニンジンが前年比28%高、ホウレンソウが15%高の2品目。前年比安となっている品目は、ハクサイが前年比60%安、ジャガイモが48%安、キュウリが25%安など12品目。因みにタマネギは、販売量が13,402トン前年比14%減、価格はkg¥89前年比15%安となっている。

東京都中央卸売市場の4月の野菜の入荷は、125,191トン前年比97%(前月比96%)。平均単価はkg¥226前年比87%(前月比も87%)で総じて軟調に推移し、多くの品目で値下りが目立った。主要品目で入荷が前年を上回った品目は、ナスが前年比109%、ハクサイとキュウリが前年比108%など4品目。前年を下回った品目は、ニンジンが前年比80%、サトイモ83%、トマトが91%など11品目。販売単価が前年比高の品目は、ニンジンがkg¥214で前年比127%。サトイモがkg¥256で108%の2品目。前年比安の品目は、ハクサイがkg¥46で前年比32%、バレイショがkg¥115で52%、キャベツがkg¥90で76%など13品目となっている。

### 東京都中央卸売市場の4月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	125,191	96.6	95.8	226	86.9	87.3
た ま ね ぎ	11,905	98.0	107.5	102	77.9	81.0
は く さ い	6,630	107.8	83.3	46	32.4	34.1
キ ャ ベ ツ	18,977	97.0	107.4	90	75.9	64.8
だ い こ ん	10,494	92.3	85.7	83	87.8	71.6
に ん じ ん	6,640	79.5	110.0	214	127.2	108.6
ば れ い し ょ	8,333	95.2	107.3	115	51.7	102.7
ト マ ト	7,464	91.4	107.6	333	99.2	93.5
レ タ ス	7,327	99.3	75.5	147	76.6	87.5
き ゆ う り	7,446	107.7	110.2	217	77.8	70.7
ね ぎ	3,387	91.8	83.2	290	88.1	77.3
か ぼ ち ゃ	2,274	111.5	79.2	165	69.0	128.9
な が い も	858	132.4	85.6	290	56.1	94.5
れ ん こ ん	462	131.5	58.5	536	62.7	124.7
に ん に く	252	94.0	82.1	1,047	89.6	100.2

#### 玉葱の概況

##### 東京市場

東京都中央卸売市場の4月の玉葱の入荷量は、11,905トン前年比98%（前月比107%）で前年を下回ったものの、消費は頭打ちで北海、府県物とも月後半は荷凭れ傾向となった。主力の北海物は、終盤を迎え、入荷は6,618ト

ン前年比96%、占有率は56%で前年比1ポイントダウン。佐賀物は、3,830トンの入荷で前年比100%、占有率は32%で1ポイントアップ。長崎物の入荷は408トンで前年比86%、占有率は3%で前年比1ポイントダウン。静岡物は376トンの入荷で前年比352%、占有率は3%で前年比2ポイントアップ。平均単価はkg¥102前年比78%(前月比81%)となっている。旬別の平均単価は、上旬がkg¥108、中旬がkg¥99、下旬がkg¥99で、市況は軟調に推移した。産地別の平均単価は、北海物はkg¥99前年比81%。佐賀物はkg¥102前年比72%。長崎物はkg¥111前年比69%。静岡物はkg¥116前年比73%となっている。

5月に入って、佐賀物主力の販売となり、入荷増から需給は緩み市況は日々値下がり基調となった。特に、2Lの動きが鈍化した。北海物は、CA貯蔵の契約物でL大¥2,250、L¥2,050維持に努めたが割高で苦しい販売となった。近在の千葉物も入荷が始まったものの、少量で品質不良で人気なく成り行き販売となった。佐賀物の産地は白石と唐津だが、唐津は手入れが良く品質良好だが、白石は荷口毎にバラツキがあり、腐敗と黴が散見されクレームが相次ぎ人気離散の状態。北海物は月半ばに終了した。此処に来て、栃木など近県物も出荷期を迎え、入荷が始まっている。千葉では、近年葉玉葱に転向する生産者が多く、切り玉葱は減少している。今年も入荷は少量で売れ行きは鈍い。栃木は球流れはL中心で品質もまずまずである。上旬の総入荷は前年比92%、平均単価はkg¥93前年比90%。中旬の入荷は前年比84%、平均単価はkg¥92前年比89%。数量減の価格安の傾向が続いている。

### **名古屋市場**

名古屋市中央卸売市場の4月の玉葱の販売量は、6,075トン前年比99%(前月比84%)で、前年比、前月比ともに減少した。主力は北海物で、入荷は4,522トン前年比101%、占有率は74%で前年と同じ。愛知物は1,287トンの入荷で前年比86%、占有率は21%前年比3ポイントダウン。静岡物は161ト

ンの入荷で前年比108%、占有率は3%で前年比1ポイントアップ。平均単価はkg¥91前年比89%(前月比92%)で、弱保合で推移した。産地別の平均単価は、北海物がkg¥83前年比92%、愛知物はkg¥112前年比86%、静岡物はkg¥108前年比88%となっている。

5月に入って、愛知物の入荷が増加傾向となり、球流れはL中心になり、地場物への関心が強まり、荷動きは回復歩調となった。兵庫物との併売となったものの、兵庫物は指値が高く、割高感から売れ行きが遠のいた。月後半には、愛知物は球肥大が進み、2L50%、L40%、M10%の球流れとなり、順調な入荷が続いたが、引き合いも活発で好調な売れ行きとなった。北海物はCA貯蔵品を¥2,200で相対販売。此の先、地場物は中晩生に移行するが、生育は順調に回復し、大粒傾向となる予想である。地産地消で地場物の動きは良い。

#### 大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の4月の玉葱の販売量は、3,259トン前年比102%(前月比118%)で、長崎、佐賀の早生物が最盛期を迎え前年比増、北海物は終盤期を迎え前年比減。然し、数量的には北海物が主力で入荷は1,756トン前年比93%、占有率は46%で前年比4ポイントダウン。佐賀物は915トンの入荷で前年比105%、占有率は24%で前年比1ポイントアップ。長崎物は902トンの入荷で前年比141%、占有率は23%で前年比6ポイントアップ。兵庫物の入荷は183トンで前年比59%、占有率は5%で前年比3%ダウン。平均単価はkg¥102前年比81%(前月比85%)で軟調に推移した。産地別の平均単価は、北海物はkg¥92前年比85%。佐賀物はkg¥105前年比74%。長崎物はkg¥106前年比71%。兵庫物はkg¥140前年比99%で、総じて前年比安となっている。

5月に入り、兵庫(淡路)物の入荷が日毎に増加し、北海物保合、府県物下押しの相場展開となり、荷凭れ傾向が続いた。3日間の休市明けも、淡路物の球流れは昨年より細く、2Lの入荷が少なく、2Lは保合、L・Mは弱保合の市況

となった。淡路物の入荷増で、買参人は淡路物優先の買い姿勢となり、佐賀・長崎物は値下がり傾向が強まった。月半ばには入荷は順調で相場は安定化した。大阪、和歌山物は、入荷量が少なく断片的で人気なく、割安相場が続いた。一時、Mが量販店の引き合いが強まり品薄高となった。北海物は契約物で¥2,200~2,100の販売。此処に来て、表面相場に変わりがないものの、上値が少なく下値が多い。1日~20日の入荷は前年比77%、平均単価はkg¥86前年比93%で、北海物は前年比高、府県物は前年比安となっている。

### 福岡市場

福岡市中央卸売市場の4月の玉葱の販売量は、2,232トン前年比61%（前月比65%）で前年比、前月比ともに大幅な減少であった。管内産地の生育遅れで、主力は北海物で販売量は1,117トン前年比62%、占有率は50%で前年と同じ。佐賀物が532トン前年比53%、占有率は24%前年比3%ダウン、長崎物が351トン前年比73%、占有率は16%で前年比3ポイントアップ。平均単価はkg¥99前年比88%（前月比98%）で総じては弱保合で推移した。産地別の平均単価は、北海物がkg¥101前年比99%、佐賀物がkg¥91前年比73%、長崎物がkg¥111前年比75%となっている。

5月に入って、3連休市明けも、入荷は急増せず、荷動きは順調でMの引き合いが強まった。佐賀物主力で終盤期の長崎物を併売。北海物は終了したが、此の先CA貯蔵の入荷を予定しているが、事前契約物で売り先もある程度確保してある。月後半は、主力の佐賀物に加え、終盤の長崎物、地場の福岡物の併売となった。佐賀物は銘柄・荷口毎に品質格差があり、品質に応じた価格差が生じた。連休明けは予想外に荷動きが良かったが、月半ばから鈍化傾向となった。福岡（三潁）物は平年作で品質も良く、学校給食に向けている。1日~20日の販売量は前年比54%、平均単価はkg¥84前年比83%で低調である。

5月26日(土)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷142トン、 強保合

北 海 20kgDB2L¥2,000～ L大 ¥2,300～2,000、 L ¥2,250～2,150。  
M¥900 ～ 800。

佐 賀 20kgDB2L¥1,600～1,500、 L ¥1,600～1,400、 M ¥1,650～1,300。

佐 賀 10kgDB L ¥800～ 750、 M ¥850 ～ 800。

【太田市場】 入荷212トン、 強保合

佐 賀 20kgDB2L¥1,400～1,200、 L ¥1,600～1,400、 M ¥1,500～1,300。

千 葉 10kgDB2L¥700 ～ 500、 L ¥700 ～ 500、 M ¥500 ～ 400。

兵 庫 20kgDB2L¥1,800～1,500、 L ¥2,000～1,800、 M ¥1,600～1,400。

栃 木 20kgDB2L¥1,300～1,200、 L ¥1,500～1,300、 M ¥1,400～1,200。

【名古屋北部】 入荷135トン、 強保合

兵 庫 20kgDB2L¥1,600～1,500、 L ¥1,800～1,700、 M ¥1,600～1,500。

愛 知 20kgNT2L¥1,400～1,300、 L ¥1,600～1,500、 M ¥1,500～1,400。

【大阪本場】 入荷106トン、 強保合

北 海 20kgDB2L¥2,000～1,800、 L大 ¥2,000～1,800、

佐 賀 20kgDB2L¥1,200～ L ¥1,600～ M ¥1,400～1,300。

佐 賀 10kgDB2L¥750 ～ 700、 L ¥800 ～ 700、 M ¥700 ～ 550。

兵 庫 10kgDB2L¥800 ～ 600、 L ¥1,000～ 750、 M ¥700 ～ 600。

兵 庫 20kgDB2L¥1,400～1,300、 L ¥1,800～1,700、 M ¥1,400～1,300。

大 阪 20kgDB2L¥1,200～1,100、 L ¥1,300～1,100。

和歌山 10kgDB2L¥600 ～ 500、 L ¥600 ～ 500、 M ¥500 ～ 400。

【福岡市場】 入荷102トン、 強保合

佐 賀 10kgDB2L¥2,300～2,200、 L大 ¥2,300～2,200。

佐 賀 10kgDB2L¥900 ～ 700、 L ¥900 ～ 700、 M ¥700 ～ 500。



長 崎 10kgDB2L¥800 ～ 700、 L ¥ 800 ～ 700、 M ¥ 600 ～ 500。

福 岡 10kgDB2L¥900 ～ 700、 L ¥ 900 ～ 700、 M ¥ 700 ～ 500。

## 供給(産地)の動き

現在、北海物はCA貯蔵等の事前契約物を残し、殆ど販売を終了した。次シーズンの定植は殆どが4月中に終了し、活着が順調で豊作が期待されている。

府県物の出荷は早生から中晩生への移行期に入り、出回りの主力は佐賀物と兵庫物であり、愛知、大阪、和歌山なども出荷期となっている。いずれの産地も作柄は回復歩調にあり、中晩生の作況は平年作が確保され、天候次第では平年作を上回る可能性もある。出荷は、生育遅れと安値市況を反映して後ズレ傾向にある。4～5月は、北海物を始め、府県物、輸入物の出回り量は前年を下回ることから、5月市況は前年比高を予想したが、売れ行き不振で需給は緩み、市況は前年比安が続いていおり、いずれの産地も収穫・出荷が先送り傾向にある。此の先、栃木、富山などの新興産地も出荷期を迎えるが、総じては生育の回復が顕著で平年作か平年作を上回ると予想している。

輸入物は、中国主力で中国物は、剥き玉を中心に前年を上回る入荷が続いている。ニュージーランドは前年を大幅に下回っているが、オーストラリアは前年並みかやや多い。

### 府県産地

5～6月期の出荷の主力は、佐賀と兵庫(淡路)になるが、両県とも当初予想を上回る作況となっている。心配されたベト病の2次伝染は、懸命な防除が効を奏し、淡路の被害は軽微、佐賀も地域的なバラツキはあるものの前年に比べると被害は軽い。

佐賀では、極早生、早生の作柄は前年並みか前年を下回ったものの、中晩生は、平均反収5.5トンが期待出来るまでに回復した。然し、地域別、圃場別にはかなりの格差がある。中心産地の白石地区では、産地を一巡すると栽培歴

の古い福富地区が見劣りする。有明地区は一部を除き病害が軽く見栄えがよく、次いで白石地区となる。その他の地区は球肥大がやや見劣りするも、病害は有明並みか有明よりも軽い。昨今の市況低迷で、生産者の多くは先高を期待して、出荷を抑制し、短期貯蔵を増やす計画をしている。

兵庫県淡路島では、早生の作柄は生育遅れと圃場格差が大きく、平均的には平年作を下回ったが、中晩生の作柄は肥大期の天候に恵まれ、昨今では平年作以上が期待されるまでに回復している。病害対策が徹底しているので、ベト病の被害は軽微である。中晩生は、総じて球揃い球締りは良好だが、豊作年に見られる抽苔の発生が皆無に近いのがやや気に掛かる。地域的には三原地区に比べ例年球肥り、球締りの良い津名地区がやや見劣りする。現在市況は、値下がり傾向にあり、中晩性は短期貯蔵や冷蔵貯蔵が多くなる気配である。

#### 北海道産地

育苗は順調で定植は天候に恵まれ、近年になく早期に終了した。いずれの地域も4月中に終了した生産者が多く、活着も良好で豊作が期待されている。作付動向は、前年並みの12,860ha、早生系が45%を占め、8月の出回り量が多くなりそうだ。

#### 外国産地

4月の輸入は速報値で、25,429トン前年比94%(前月比93%)で、予想を上回った。国別では中国が22,371トン前年比117%。ニュージーランドが2,341トン前年比35%。オーストラリアが493トン前年比104%で、中国は順調な増加、ニュージーランドは予想を上回ったものの大幅減であった。

中国、産地は雲南省から河南省、江蘇省と順次移行しているが、球肥大は遅れていると言われている。6月後半には山東省が主力となる。江蘇省では病害が発生し、球肥大不良との情報がある。山東省では作付が若干減少している。中小の生産者の栽培意欲が減退し、大口生産者主力の栽培となっている模様。生育は順調と伝えられているが、6月の出回り量は前年比減と予想され

ている。唯、今年韓国からの発注減で、需給は緩和傾向と予想されている。現在の日本向け価格は、剥き玉20kg・C&F・\$6.00～6.50である。

ニュージーランド、天候不順で、作柄は小粒で大玉は少なく、かなりの生産減となっている。輸出も大幅減と聞かすが、日本向けは予想外に多く、中旬までの船積みは6,292トン前年同期は17,861トン、前年比35%となっている。日本向けの価格は、20kg・C&F・70～80mm ¥1,250、75mm up・¥1,300である。

オーストラリア、前年並みか前年をやや上回る入荷で、価格は20Kg・C&F・70～80mm・豪ドル14.00(リーファコンテナ積)

## 6月の市況見通し

5月市況は、4月に続き出回り量は前年を下回ったものの、価格は前年比安の状況が続いた。前年に比べ出回り減の価格高を予想したが、市況安で生産者の栽培意欲に影響した。府県の中晩性の作柄は、平年作から豊作型に好転しているが、6月の需給は緩和から均衡に向かうと見ている。府県産の出回りは前年比増となるものの、輸入物と北海物は前年比減となることで、市況は月前半に底値固めとなり、後半は緩慢ながら回復に転じると見ている。何れの産地も夏高期待ムードにあるが、北海産の生育次第では、期待薄になる。(了)